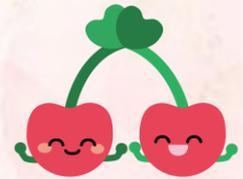


さくらんぼだより



2025年1月号

あけましておめでとうございます。2025年へび年の幕開けです。
現代では、へびは脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルともされています。
日本の救急車にもへびのマークが付いていることをご存知ですか？
救急車以外にも、WHOやさまざまな医療機関で、杖にへびが絡みついたマークを採用していて、「アスクレピオスの杖」と呼ばれます。
ギリシア神話に登場する名医アスクレピオスの持っていた、へびが巻きついた杖のことで、医療・医術の象徴として世界的に広く使用されているのです。
このようにへびは、多方面でプラスのイメージの象徴であり、縁起物として親しまれています。
さくらだ眼科は、2025年もみなさまに安心して治療を受けていただけるように、スタッフ一同ちからを合わせてがんばります！！



Q. 初詣は毎年どこへ行っている？



A. 成田市・成田山新勝寺

A. 君津市・鹿野山 神野寺

A. 富津市・鶴峯八幡神社

A. 館山市・小塚大師

A. 川崎市・川崎大師

A. 富津市・大堀神明社



院長より



2025年は巳年です。巳すなわち蛇は脱皮をする生き物であることから「復活と再生」を象徴し、新しいことが始まる年とされています。当院は開院して15年目に突入します。スタッフ一同、気持ちを新たに、反省すべきところは反省し、改善すべきところは改善し、地域医療に貢献してまいります。引き続きよろしく願い申し上げます。

1月号担当より

今回のさくらんぼだよりは、スタッフがそれぞれ「もう一度見たい懐かしのアニメ」を考えてみました。YouTubeでオープニングテーマや、エンディングテーマをみんなで聴き直したときには、何十年(?)の時を超えて自然と口ずさむスタッフも。幼い頃を思い出し、楽しい時間となりました。

涙のアニメリクエストカーニバル



天才バカボン

毎回、バカボンのパパの能天気な「これでいいのだ〜！」で全て解決してしまう、お気楽なマンガ。大人になった今こそ楽しめる気がします。

ざんざんよ注意報！



人間と動物が同じ学校に通っているギャグ系アニメ。空を飛ぶピンク色の金魚「ぎよぴちゃん」が印象的。クラスメイトのウシさんは、焼きそばパンが大好きでよく食べていて、とっても美味しそうで、私も食べたくなってよく母に作ってもらっていました。



魔法の天使 クリミーママ



普通の女の子、優が大人っぽくて、可愛いアイドルの姿に変身するシーンにワクワク。魔法ステッキに憧れた幼少期。魔法の国から来た2匹の遣いの白い猫、「ポジ」と「ネガ」にも癒されて、いつかこんな猫を飼いたいと思っていたのに、現在、我が家のペットは茶色いわんこ1匹です。

花の子ルルル



主人公の女の子が、幸せをもたらすといわれている花を探して旅をする物語。最後に「花ことば」を言うので、メモを取っていました。毎週姉と楽しみにしていました。



銀牙流れ星 銀



小学校低学年だった私には衝撃的でした。熊と犬の戦い。まだ生まれたてだった子犬の銀は、熊犬として過酷なしつけをされ実践を繰り返す。そして最後は、宿敵赤カブトという大熊のとどめを、銀が刺してめでたし、めでたし。

名犬ジョリイ



主題歌の「♪ 走れジョリイ トゥルルルルルルル♪」の巻き舌を一生懸命練習した子供の頃の私。「ジョリイのような犬が欲しい♡」そんな私の願いを聞いて、父が買ってきたのは真っ黒のシェパードでした。

わん！



初代ドラえもん

現在テレビ朝日系列で放送されている「ドラえもん」のアニメは1979年から続く長寿番組ですが、実はそれ以前、1973年に日本テレビ系列で半年間だけ放送されたものが初代の「ドラえもん」です。

小学校低学年だった私は、初代「ドラえもん」の放送を毎回楽しみにしていました。てんとう虫コミックス第6巻に収録されている「せん水艦で海へ行こう」も初代「ドラえもん」でアニメ化されたのですが、放送日にたまたま家庭の用事があり見れませんでした。家庭用ビデオデッキが無い時代でしたから、再放送が無い限り見る事ができません。

瞬間移動可能な超小型潜水艦に乗り込んだ「ドラえもん」と「のび太」が、歯磨き中の人の口内や水洗トイレの中などへと次々と移動するものの、いつまでたっても海にたどり着けないという話を振り返って楽しそうに語らう友人の輪に入れず、寂しい思いをしたことを覚えています。

今に続く二代目「ドラえもん」アニメでは、大山のぶよさんが「ドラえもん」の声を担当する時代が長かったため、「ドラえもん」の声と言えば女性的なダミ声を連想しがちですが、初代「ドラえもん」の前半は富田耕生さんという声優さんの担当でした。天才バカボンのパパも富田耕生さんの声です。確かに初代「ドラえもん」の声は説教臭いオヤジの声でした。あの頃は高度成長時代で日本中が夢と希望に溢れていた時代でした。

もし初代の「ドラえもん」を見直す機会があったら、懐かしさとともに当時の高揚感が蘇ってくるでしょう。

